

2025年(令和7年)1月20日(月曜日)

電波新聞

日ソリチュネル
立チャネル
ソリュショ資料、機材など物品管理効率化
物品自動探索システム 披露

日立チャネルソリューションズ(旭本社・愛知県尾張旭市)は、汎用(はんよう)カメラとQRコードを活用した「物品自動探索システム」を開発した。システムは、オフィス内の資料、図書館などの施設の書籍、工場・倉庫・サービスなどさまざまな業界で利用される機材、備品などの物品管理を効率化する。

フローは①施設内のイトを照射し、その位置を明示する。物品の位置や移動履歴の追跡から、汎用カメラを通してそれぞれの物品に貼り付けたQRコードが読み取れる。QRコードがどこにあるか把握し、読み取ったQRコードからQR情報を取得し、該当するQRコードが付いた探索対象の物品を自動で見つけ出す③定めた物品に対してラ

QRコードでは難しいとされてきたのが、画像処理技術でこれらを補正できるため、物品の置き方やサイズ、QRコードの位置(角度)

梅村課長(左)と
三宅部長書籍を探すデモン
ストレーション

ードの一部が他と重なり見えない場合も読み取り補正を自動で実施③壁面などに張り付けられゆがんで見えるものに対し補正を自動で実施——など。

活用先は、オフィスや倉庫などを想定。事務所では、財務関連の資料が法務関係の棚に紛れているなど正しく指定された場所に保管

名古屋ロボテックスでのブースの様子



されていないか検知する。出荷で物品の移動が激しいと想定される倉庫では、入荷したものを品番で指定して探せる。

時間やカメラ画像、QRコードが読めなくなることを組み合わせる管理もできる。台車にQRコードを付けておけば「午後2時にAさんが台車を使い始めた」ということも分かる。

QRコードは印刷が可能で、RFIDを利用した場合に比べて、導入機器や登録の手間が少なく、価格面の優位性が高いほか、金属面にも対応できる。海外事業部開発本部ソフト開発部の梅村英

明課長は「既存のカメラを使用できる。システムを導入してすぐに誰でも使える」と人不足への対応も強調した。製品の機能や仕様については検証結果を踏まえて、高速化など機能の追加や利便性の向上に取り組み予定だ。

システムは昨年10月に名古屋市中で開催された「第7回名古屋ロボテックス」に参考出展した。さまざまな利用シーンを想定し、複数の物品の中から特定の物品を探し出すデモンストレーションを行った。製造業の関係者からも注目度が高く、ロボットの連携など自動化も検討している。

チャネルビジネス推進センタ営業部の三宅健文部長は「2025年度中に商品としてお披露目したい。アイデア次第でさまざまな使い方ができる。ロボなども積極的に取り組みたい」と意気込みを語った。